



開倫ユネスコ協会
NewsLetter

第 1 1 0 号

足利市堀込町145 Tel 0284-72-5915

発行者 林 明夫 2016年12月15日

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

ユネスコ 世界哲学の日

2016年11月17日(木)、開倫ユネスコ協会が主催、伊豆ユネスコクラブ、スプリングユネスコクラブが共催して、「2016ユネスコ世界哲学の日ー哲学なくしてユネスコなし、今哲学しようー」を国連大学エリザベス・ローズ国際会議場で開催致しました。ユネスコ本部(パリ)では、毎年11月の第3木曜日を「UNESCO WORLD PHILOSOPHY DAY (ユネスコ世界哲学の日)」と定め「哲学なくしてユネスコなし」との考えのもと、哲学を基本に人間の根本を考えた上でのユネスコ活動の推進を行っています。

開会セレモニーが10時に開始され、日本ユネスコ国内委員会委員であり開倫ユネスコ協会事務局長 高尾初江より開会のことばが述べられました。

続いてご来賓からのご挨拶をいただきました。まず、文部科学省日本ユネスコ国内委員会 福田和樹 事務次長、次に日本ユネスコ協会連盟 野口昇 理事長から、ユネスコに関する大変に貴重なお言葉をいただきました。福田事務次長は、ユネスコは対話の場であるので、文部科学省だけでなく民間ユネスコ運動をされている方々、研究者や芸術家の方々など多くの皆様が『ユネスコ』を通じて議論し合い、よりよい方向性を見いだすことが重要だと述べられ、本日のこのようなユネスコイベントが開催されることは大変意義深いことです、と述べられました。また、野口理事長は、混迷を深める世界で、ものごとの本質に立ち返って考えるとき、哲学の役割や重要性が求められています、と述べられました。来年2017年は民間ユネスコ運動70周年の節目の年ですので、この世界哲学の日を契機に民間ユネスコ運動をさらに盛り上げていきたいとおっしゃっていました。

続いて記念講演として、「平和と民主主義の哲学」というテーマで、日本ユネスコ国内委員会委員の猪口邦子 参議院議員からお話をいただきました。猪口議員は、「ユネスコ世界哲学の日」の催しは日本では、今日この集まりが初めてで、この会場から哲学を深めようとするこのような企画の先見性に敬意を表したいと述べられました。日本は経済発展し、政治も発展しましたが、哲学的な発展はどうだったのかを聞きたいと話され、「哲学はどのように生まれるか」ということに対しては、

哲学は苦勞や苦難から生まれる、と猪口議員は述べられました。苦勞している人や苦難のなかにある国が、その苦勞や苦難を「哲学」にまで昇華してきたことが、これまでの人間の優れた能力とおっしゃいました。では、国連やユネスコはどんな苦勞から生まれたのか、ということを理解することがこの哲学の日を理解することと話されました。国連は2つの戦争が起きた結果から生まれ、苦勞の原因究明をしてそれを乗り越えていくなから「哲学」が生まれたと述べられました。

続いて基調講演として、Dari K 吉野慶一 代表が「Dari Kの挑戦 社会起業家の立場から—インドネシアカカオ農家への自立支援—」というテーマでお話しをされました。吉野代表は、人生を変える出来事をいくつも経験する中から、「アイデアと行動力でどれだけ世界にインパクトを与えられるか」を試しつつ、ワクワクする社会を作りたいと起業したそうです。吉野代表はカカオに着目しインドネシアのカカオ農家と連携して高品質のカカオを直接買い取り、京都で自家焙煎のチョコレートを製造し販売しています。吉野代表は、マスコミからの注目度は非常に高く、この日の夜もNHKに出演する予定だとおっしゃっていました。

続いて、伊豆ユネスコクラブ小林恵智代表幹事から「反戦・平和を考える」をテーマにした報告があり、またスプリングユネスコクラブ岡田弘行最高顧問から「平和の尊さを考える」をテーマにした報告がありました。最後に、パネルディスカッションが行われました。コーディネーターを開倫ユネスコ協会林明夫会長が務め、パネラーには、小林代表幹事・岡田最高顧問・吉野代表・白鷗大学柳川高行教授が参加され、大変に有意義な議論が展開されました。

この「ユネスコ世界哲学の日—哲学なくしてユネスコなし、今哲学しよう—」に100名を超える皆様にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。



会場全体



記念講演:猪口邦子議員



パネルディスカッション



林会長 柳川教授 吉野代表 小林代表幹事 岡田最高顧問



司会:開倫ユネスコ協会林明夫会長